

現代風「付け」で街歩き

城崎温泉 食事、買い物手ぶらで

ちょっと旅館に付けといて。客の宿泊旅館を浴衣で識別し、支払いに応じる慣習が一部に残る城崎温泉（豊岡市城崎町）で、携帯電話やバーコードを使って支払うシステムが導入されている。財布を持ち歩かずに土産物を買ったり、食事をしたりして、旅館でまとめて精算する現代風の「付け払い」。柳並木の温泉街では、手ぶらでそぞろ歩きを楽しむ宿泊客が増えている。

(西井由比子)

携帯やバーコードかざすだけ

地酒を多くそろえる温泉街の酒店。バーコードホルダーを首から下げた浴衣姿のカップルが入ってきた。商品を選び、支払いはレジ横に備え付けられた読み取り機に、バーコードをかざすだけ。

「手ぶらで歩けるのはすごく便利。外湯に入ってから来たんですが、温泉に入るのに財布を持って行くのは、なくしそうだし面倒」と大阪府貝塚市から来た看護師の北田知也さん(25)は満足そう。

システムは、温泉側の要望を受けた独立行政法人産業技術総合研究所(東京)が2年かけて開発した。城崎温泉で昔からある「旅館付け払い」

旅館でまとめて精算

に着目。開発担当者は「地域活性化のためのシステム開発に取り組んでいたときに、これは面白いと思った」と話す。

電子マネー機能を搭載

したICカードや携帯電話など、専用端末にかざせば個人認証できるものを



旅館名や利用期限などが書かれたバーコード。ホルダー付きで渡される

温泉街の買い物は、専用端末にバーコードをかざすだけで＝豊岡市城崎町湯島

使う。利用者は旅館のチェックイン時、専用端末にかざして利用登録する。ICカードがない場合は、旅館名などが記入されたバーコードが発行される。登録した携帯電話やカード、バーコードを持って出かけ、外湯や店舗の読み取り機にかざす。代金情報はすべて宿泊旅館に集約され、チェックアウト時にまとめて支払う。

昨年12月に本格導入され、現在、城崎温泉にある約50の旅館と35店舗・施設で利用できる。利用店舗は今後も増やしていくという。

「こんなシステムを取り入れている温泉はほかにない。テーマパークのような感覚で、身軽にまち歩きを楽しんでほしい」と同温泉のシステム事務局。

開発した産総研には「地域通貨や買い物ポイントなどに応用できないか」と、全国各地の複数の商店街から問い合わせが来ているという。